

＝自転車 J I S 改正（案）に対する意見募集について＝

（財）自転車産業振興協会は平成12年度より自転車 J I S 規格の原案作成団体として、これまで多くの自転車 J I S 規格の改正・審議を実施してきております。

さて、今般、下記の自転車 J I S 規格（1規格）については、業界有識者で構成する「J I S 調査分科会」において、改正内容を十分審議・検討した上で、具体的改正（案）を取りまとめました。

つきましては、この改正規格（案）に対して、広く業界の皆様からご意見をいただきたく、下記の要領によりパブリックコメントを募集いたしますので、是非とも忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

なお、取りまとめた改正規格（案）は、当協会・技術研究所のホームページ (<http://www.jbtc.or.jp>) に掲載いたしております。

意見募集 対象規格	J I S K 6 3 0 2（自転車用タイヤ）
規格案の 関 覧	（財）自転車産業振興協会 技術研究所のホームページ (http://www.jbtc.or.jp) ※改正規格（案）は、新・旧対比表で掲載しております。
意見募集 期 間	平成22年3月4日（木）～3月18日（木）
意見募集 方 法	会社名、担当者名、連絡先等を必ず明記の上、下記宛に文書又はメールで送信願います。（様式問わず）
送付及び 問合せ先	〒590-0948 大阪府堺市堺区戎之町西1丁3-3 （財）自転車産業振興協会 技術研究所 T E L 072-238-8731 F A X 072-238-8271 e-mail webmaster@jbtc.or.jp
そ の 他	皆様から頂いたご意見（コメント）につきましては、必要に応じて内容を検討させていただきます。

K 6 3 0 2 (自転車用タイヤ) 現行規格と改正案の対比表

	現行 J I S		改正案
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">K 6 3 0 2 (自 転 車 用 タ イ ヤ)</p>	<p>1. 適用範囲 この規格は、JIS D 9111 に規定する自転車に用いる空気入りタイヤ (以下タイヤという。) について規定する。ただし、チューブラタイヤ (丸タイヤ) には適用しない。</p> <p>2. 用語の定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS D 9112 による。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">K 6 3 0 2 (自 転 車 用 タ イ ヤ)</p>	<p>〔改正案のポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行 J I S の K 6 3 0 2 (自転車用タイヤ) と D 9 1 1 2 (自転車用タイヤ - 諸元) を統合する。(K 6 3 0 2 改正後に D 9 1 1 2 は廃止) ・ I S O 5 7 7 5 - 1 (タイヤの国際規格) に準じ、表示方法を追加した。 <hr/> <p>1 適用範囲 この規格は、JIS D 9111 に規定する自転車に用いる空気入りタイヤ (以下タイヤという。) <u>及び運搬車に用いるタイヤ</u> について規定する。ただし、チューブラタイヤ (丸タイヤ) <u>及びチュープレスタイヤ</u> には適用しない。</p> <p>3 用語及び定義 この規格で用いる主な用語の定義は、<u>JIS D 9112 次</u> による。</p> <p>3.1 タイヤの呼び <u>タイヤの呼びは、(タイヤ外径の呼び) × (タイヤ幅の呼び) 又は (タイヤ幅の呼び) - (リム径の呼び) とする。</u></p> <p>3.2 適用リム <u>タイヤの性能を有効に発揮させるのに適したリム。</u> <u>注記 適用リムの種類、形式及び呼びは、JIS D 9421 参照。</u></p> <p>3.3 タイヤの総幅 <u>タイヤを適用リムに装着して、標準空気圧を充てんし、負荷を加えない状態¹⁾でのタイヤの最大幅 (図 1～図 4 参照)。</u> <u>注記 タイヤ幅は、タイヤの総幅の模様、文字などを除いたサイドウォール間の直線距離である。</u> <u>注¹⁾ タイヤが接地しない状態。</u></p> <p>3.4 タイヤの外径 <u>タイヤを適用リムに装着して、標準空気圧を充てんし、負荷を加えない状態¹⁾の外径 (図 1～図 4 参照)。</u></p>

規格	現行 J I S	規格	改正案
	<p>3. 種類及び呼び タイヤの種類及び呼びは、JIS D 9112 による。ただし、JIS D 9112 に規定するもの以外の種類及び呼びについては、受渡当事者間の協定による。</p>		<p>3.5 設計寸法 <u>タイヤの設計の基準となる寸法。タイヤの総幅及びタイヤの外径の総称。</u></p> <p>3.6 標準空気圧 <u>タイヤの性能を有効に発揮させるのに適した空気圧。</u></p> <p>3.7 推奨空気圧範囲 <u>タイヤの性能を有効に発揮させるのに適した空気圧の範囲（最大空気圧及び最小空気圧）。</u></p> <p>3.8 最大負荷 <u>タイヤに標準空気圧を充てんしたとき、タイヤの耐久性を有効に発揮させることができる最大の負荷。</u></p> <p>3.9 PR（プライレーティング） <u>タイヤ強度の目安。最低等級は2 PR であり、その表示を省略する事ができる。</u></p> <p>3.10 運搬車用タイヤ <u>タイヤ幅の呼びが1 3/4 以上で4 未満の BE タイヤ又は WO タイヤで、リヤカー、一輪車などの人力で動かす運搬用車両に用いるタイヤ。</u></p> <p>4 種類及び呼び <u>タイヤの種類及び呼びは、JIS D 9112 によるビード部の形式によって区分し、次の3種類とする。ただし、JIS D 9112 に規定するもの以外の種類及び呼びについては、受渡当事者間の協定による。</u></p> <p>a) <u>WO²⁾タイヤ（図1参照）</u></p> <p>b) <u>HE³⁾タイヤ（図2参照）</u></p> <p>c) <u>BE⁴⁾タイヤ（図3参照）</u></p> <p><u>注²⁾ Wired On の略。ISO 5775-1 では、ストレートサイドリム（SS リム）又は、クロchetteタイプリム（CT リム）に取り付ける“ワイヤードエッジ”タイヤと規定している。</u></p> <p><u>注³⁾ Hooked Edge の略。ISO 5775-1 では、フックドビードリム（HB リム）に取り付ける“ビーデッドエッジ”タイヤと規定している。</u></p> <p><u>注⁴⁾ Beaded Edge の略。【図1～図3は省略】</u></p>

	現行 J I S		改正案
K 6 3 0 2 (自 転 車 用 タ イ ヤ)	<p data-bbox="197 938 315 970">4 品質</p> <p data-bbox="197 986 331 1018">4.1 外観</p> <p data-bbox="197 1034 1084 1198">タイヤの外観は、形状、肉厚ともに均整で、傷、気泡、ゴム割れ、ゴム流れ不良及び異物混入による有害な欠点がなく、JIS D 9112 に規定する適用リム又は受渡当事者間の協定によるリムに装着したとき、著しい振れがないものでなければならない。</p> <p data-bbox="197 1246 1084 1318">4.2 性能 タイヤの性能は、自転車用タイヤと運搬車用タイヤに区分し、5.によって試験し表 1 又は表 2 の規定に適合しなければならない。</p>	K 6 3 0 2 (自 転 車 用 タ イ ヤ)	<p data-bbox="1187 172 1305 204">5 諸元</p> <p data-bbox="1187 220 2136 336">タイヤの諸元は、タイヤの種類に応じ、表 1~3 による。表 1~3 に規定する以外のタイヤの種類、タイヤの呼び、標準空気圧及び適用リムを使用する場合は、受渡当事者間の協定による。</p> <p data-bbox="1187 352 2136 424">a) 成長総幅 使用時（無負荷時）におけるタイヤの総幅（成長総幅）の設計寸法に対する変化（成長量）は、+3mm を超えてはならない。</p> <p data-bbox="1187 440 2136 512">b) 成長外径 使用時（無負荷時）におけるタイヤの外径（成長外径）の設計寸法に対する変化（成長量）は、+6mm を超えてはならない。</p> <p data-bbox="1187 528 1451 560">【表 1 ~ 表 3 は省略】</p> <p data-bbox="1187 616 1464 647">6 タイヤ寸法の測定</p> <p data-bbox="1187 663 2136 783">タイヤの寸法測定は、表 1~3 の適用リムにタイヤを装着し、標準空気圧を充てんしてから 24 時間経過後、再び標準空気圧に調整し、負荷を加えない状態で行う。</p> <p data-bbox="1187 791 2136 903">外径は、ノギスで測定するか又は鋼製巻尺でタイヤの外周を測り、その数値を$\pi (=3.14)$ で除して求める。総幅は、ノギスで測定する（図 1~図 3 及び図 4 参照）。</p> <p data-bbox="1187 911 1368 943">【図 4 は省略】</p> <p data-bbox="1187 999 1305 1031">7 品質</p> <p data-bbox="1187 1046 1323 1078">7.1 外観</p> <p data-bbox="1187 1094 2136 1254">タイヤの外観は、形状、肉厚ともに均整で、傷、気泡、ゴム割れ、ゴム流れ不良及び異物混入による有害な欠点がなく、JIS D-9112-表 1~3 に規定する適用リム又は受渡当事者間の協定によるリムに装着したとき、著しい振れがないものでなければならない。</p> <p data-bbox="1187 1270 1323 1302">7.2 性能</p> <p data-bbox="1187 1318 2136 1382">タイヤの性能は、自転車用タイヤと運搬車用タイヤに区分し、8 によって試験し表 4 又は表 5 の規定に適合しなければならない。</p> <p data-bbox="1187 1390 1451 1422">【表 4 ~ 表 5 は省略】</p>

規格	現行 J I S	規格	改正案
	<p>5.4 裏布の引張試験</p> <p>裏布がすだれ織の場合は、たて糸の方向から、裏布が平織布の場合は、たて糸及びよこ糸の両方向から、試験片として幅 10mm の布層（すだれ織布は最も内側にある層をトレッド部中央下の位置から測定する。）を採り、JIS K 6251 に規定する引張試験機を用いて、次の二つの方法のいずれか（平織布は B 法による）に従い、常温・常湿で裏布の引張強さを測定する。引張速さは、毎分 200～300mm とし、試験片のつかみ具合の距離は 20mm 以上とする。</p> <p>A 法： 幅 10mm の試験片の各コードが同時に切断した時の引張力を測定し、次の式によって引張強さを算出する。試験結果は、試験片 3 個の測定値の平均値とする。</p> $L = \frac{S}{b} \times \frac{P}{PR}$ <p>ここに、 L： 引張強さ N/mm {kgf/cm} S： 引張力の測定値 N {kgf} b： 試験片の幅 mm {cm} P： 実際のプライ数 PR： プライレーティング</p> <p>【B法は省略】</p> <p>6. 表示</p> <p>タイヤには、容易に消えない方法で、次の事項を表示しなければならない。</p>		<p>8.4 裏布の引張試験</p> <p>裏布がすだれ織の場合は、たて糸の方向から、裏布が平織布の場合は、たて糸及びよこ糸の両方向から、試験片として幅 10 mm の布層（すだれ織布は最も内側にある層をトレッド部中央下の位置から測定する。）を採り、JIS-K 6251B 7721 に規定する <u>等級 1 級以上の</u>引張試験機を用いて、次の二つの方法のいずれか（平織布は B 法による）に従い、常温・常湿で裏布の引張強さを測定する。引張速さは、毎分 200～300 mm とし、試験片のつかみ具合の距離は 20 mm 以上とする。</p> <p>A 法： 幅 10 mm の試験片の各コードが同時に切断した時の引張力を測定し、次の式によって引張強さを算出する。試験結果は、試験片 3 個の測定値の平均値 とする。<u>を、JIS Z 8404 によって少数点以下 1 けたに丸める。</u></p> $L = \frac{S}{b} \times \frac{P}{PR}$ <p>ここに、 L： 引張強さ N/mm {kgf/cm} S： 引張力の測定値 N {kgf} b： 試験片の幅 mm {cm} P： 実際のプライ数 PR： プライレーティング</p> <p>【B法は省略】</p> <p>9 製品の呼び方</p> <p><u>製品の呼び方は、規格番号又は“自転車用タイヤ”（名称）及びタイヤの呼びによる。</u></p> <p>例 1 <u>JIS K 6302 26×1 3/8</u></p> <p>例 2 <u>自転車用タイヤ 20×1.50</u></p> <p>10 表示</p> <p>タイヤには、容易に消えない方法で、次の事項を表示しなければならない。</p> <p>a) タイヤの呼び</p>

<p>(1) 呼び</p> <p>(2) 標準空気圧(6)</p> <p>(3) 製造業者名又はその略号</p> <p>(4) 製造番号又は製造記号</p> <p>注(6) 標準空気圧は, JIS D 9112 による。ただし, 輸出用は, この限りではない。</p>	<p>b) 標準空気圧, <u>最大空気圧又は推奨空気圧範囲</u></p> <p><u>例 1 標準空気圧 300kPa</u></p> <p><u>例 2 推奨空気圧範囲 250-350kPa</u></p> <p>c) 製造業者名又はその略号</p> <p>d) 製造番号又は製造記号</p>
--	---